

FUKUSHIKEN JOURNAL

“福祉研ジャーナル”

高齢者や障害者のための施設を専門に設計する、日比野設計+福祉施設研究所が発行するフリーペーパー。高齢者・障害者施設に関する情報や最新のプロジェクト等を紹介しします。

vol.03
2023
TAKE FREE



特別養護老人ホーム シーサイドかなざわ / 神奈川



特別養護老人ホーム 湯楽苑 / 長崎

TOPIC

福祉施設の理想と実現性

2023年の動向

2023年、新しい年がスタートしました。新型コロナウイルス感染症の問題が本格的になって既に3年が経過しようとしています。この3年は建設業界においても、これまでに経験した事の無い激動の年になったのではないのでしょうか。

私達が係る高齢者施設や障害者施設は、利用するほとんどの方はいわゆる社会的弱者と呼ばれる方々で、高齢によって認知症であったり、車椅子利用者であったり、また障害者の方々にも重度の方がいて、その多くは一人で生活が出来ず介護者の支えが必要な方々です。そうした介護現場での感染症問題は深刻な問題であり、世の中の企業が行っているテレワークやリモートといった概念が当てはまらない、常に人と人が接する現場であるという事です。施設で高齢者や障害者が感染症にかかったとしても、隔離して生活する事はできません。すこしでも感染症対策をとりながら試行錯誤の介護が続いていくという日常が止まることなく動き続けています。

春からはコロナについてもインフルエンザと同等の5類になるという話も進んでいます。こうした社会的弱者の方においては常に命に係る深刻な状況であり、感染症と共存していく生活を模索していかなければいけません。私達が建築設計という活動において出来る事、コロナとの共存できる施設創りを意識していく事が大切です。

物価高騰の中でのこれから

世の中の情勢は新型コロナウイルスによる影響やロシアとウクライナでの戦争での物不足は深刻となっており、木材の需要と供給のバランスが崩れウッドショックなどと世間を騒がせ木材価格の大幅な上昇に繋がりました。また、輸入においても各生産拠点を海外に頼っている物が多く、各国での生産量の縮小や円安の影響もあり、物不足が深刻な問題となっております。

私達が係る福祉施設は、高齢者施設においても新規として創設する事業よりも、既存建物の建替えが増えており、今後も老朽化による安全対策は急務になっていくと考えられています。また、こうした福祉施設の事業は行政からの補助金事業が多く整備年度の予算との兼ね合いもあり、建替えの出来るタイミングを逃す事なかなか難しいという事情もあるのです。民間の事業であれば建設費が高騰している今では無く、もう少し先延ばししての整備という事もあるのですが、こうした事業ではなかなかそういう訳にもいきません。

物価の高騰という現実の中で、どのように施設の建替えや整備を進めていけるのか、世の中の動きに対応した整備計画を考え実行していくためには、より専門的な知識と経験が必要だと感じております。

これからの高齢者施設や障害者施設は、どんな物でも良いという事では通用しません。様々な事が多様化されていく中で、他の施設では無いオンラインワンのサービスや取り組みがこれらの選ばれる施設を生み出し、そして利用者の生活も安定して継続できるものと考えています。福祉施設も淘汰されていく時代をむかえようとしています。この施設に入りたいと思っただけの施設整備をこの難しい情勢の中でも実現していく事が求められているのです。



特別養護老人ホーム 湯楽苑 / 長崎

PROJECT REPORT



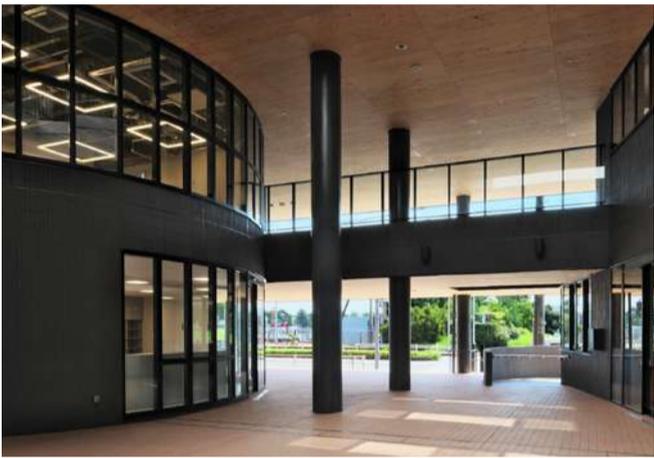
特別養護老人ホーム 湯楽苑

TOPIC 竣工物件

長崎県雲仙市で進めてきた特別養護老人ホームの建替え事業。2年半にわたる工事がようやく完成し、新しい施設での生活が始まっています。雲仙市小浜町は小浜温泉として知られる観光地です。この場所で生活してきた高齢者の方々にとって温泉は生活の中に身近に存在しており、面会にくるご家族、ここに通ってくるデイサービスの高齢者も含めてゆつくりと温泉を楽しんでいただけるとのことです。特別養護老人ホームとして、橋本を望む素晴らしいロケーションを活かしたリゾートホテルのような生活空間としています。共用の食堂からはもちろん、全室個室のプライベート空間は全て部屋から海を見ることができ、ゆつくりとした時間を過ごすことができます。エントランスに隣接するラウンジには、車椅子利用者も利用できる足湯があり、この施設を訪れる方々がゆつくりと過ごしていただけるコミュニケーションの場となっています。

計画地を含む一体は古くは江戸時代から埋め立てを行ってきた、新しいもの受け入れながらも歴史や伝統を繋ぎ、新旧がバランスよく共存している「あたらしいてなつかしい港街」です。建築計画ではこの街の成り立ちや新旧のバランスの良さに溶け込み、さらにその良さを引き出すような建築になるよう意図しています。介護施設に入所・通所する高齢者と地域ケアプラザの利用者が出会う場、老若男女様々な人が行きかう場として計画しています。一、二階は海に向かってオープンなデッキやプラザ・カフェ・フィットネスルームを設け、自由に入出入りできる開放的な空間にし、三階以上に設けられた特別養護老人ホームはプライベートを守りつつ、海に向かって開いています。いよいよ3月からは地域ケアプラザも運用が始まり、建物全体が稼働します。今後ゆつくりと地域に馴染んでいくことを期待しています。

神奈川県横浜市の特別養護老人ホームと地域ケアプラザ（公民館のような公的な空間）からなる複合建築です。計画地を含む一体は古くは江戸時代から埋め立てを行ってきた、新しいもの受け入れながらも歴史や伝統を繋ぎ、新旧がバランスよく共存している「あたらしいてなつかしい港街」です。建築計画ではこの街の成り立ちや新旧のバランスの良さに溶け込み、さらにその良さを引き出すような建築になるよう意図しています。介護施設に入所・通所する高齢者と地域ケアプラザの利用者が出会う場、老若男女様々な人が行きかう場として計画しています。一、二階は海に向かってオープンなデッキやプラザ・カフェ・フィットネスルームを設け、自由に入出入りできる開放的な空間にし、三階以上に設けられた特別養護老人ホームはプライベートを守りつつ、海に向かって開いています。いよいよ3月からは地域ケアプラザも運用が始まり、建物全体が稼働します。今後ゆつくりと地域に馴染んでいくことを期待しています。



特別養護老人ホーム シーサイドかなざわ



縁ゆかり野田介護予防センター

TOPIC 現場進行中

千葉県野田市の高齢者サービスセンターの現場です。昨年9月から始まったサービスセンターの別棟での増築工事で、建物の外観はほぼ完成し、内部の仕上げ工事と外構工事が並行して進行している段階です。昨今、高齢者サービスセンターは様々な取組をしている施設も増え、地域によっては閉鎖する施設もあります。こちらのサービスセンターは多くの理学療法士を在籍させ、高齢者の運動機能の改善に特化している株式会社運営する地元でも人気のサービスセンターです。隣接する敷地に機能回復訓練スペースにあわせて、オープンキッチンでの調理、散策路や畑が点在する外部空間を配置し、自然に体を動かしたくなる環境とすることで、高齢者の介護予防や運動機能の回復をより重視させていくという事を目的としています。地域の方々が集い、元気な高齢者が増えるきっかけになればと考えています。

HP、SNSをチェック!

福祉施設研究所 HP

福祉施設研究所 ブログ

福祉施設研究所 instagram



購入してからあつという間に三ヶ月が経ちました。納車日に早速たくさん荷物を積み込んでキャンプに行きました。新年には雪の中を走って出身地である長野の戸隠に初詣に行きました。そしてどこかに行く度、車の中には新しいガラクタが増えていき少しずつですが、自分色に染まってきたなあと思惑しています。さて、来週は何処へ行くか。楽しみで仕方ないです。

今年の初詣は神奈川県南足柄市の大雄山最乗寺へ。開創六百年の歴史あるお寺。境内への参道は大変美しく、大きな杉が林立する様子と樹々の合間から漏れる冬のやわらかい光をじっくりと堪能してきました。と言いたのですが、本当は息子を追いかけながら小走りでもハアハアと何とか参拝3歳になった息子は緩い上り坂と階段の参道をミニカー片手にひいひいひいといと軽快に歩き、あつという間に一番手前の開山堂にお賽銭を入れて、めでたく無事参拝。さて、おみくじ引いて帰っておいし正月料理に舌鼓を打っていたら、まだ歩き足りない息子はさらに奥へ。参拝者が突く大きな鐘には目もくれず心身を浄化してくれる御共橋(ごくうばし)を颯爽と渡り、結界門をささっと通り抜け、現れたのは高下駄のある御真殿へ続く七十七段の階段。

人生で1番の買い物をしました。自分よりも年上の三十年も前の車、日産の「PAO」です。そもそもチャリ通勤の私は休日に乗るだけのものだし、ひと月に四回程度ならレンタカーを借りた方が安上がりなので、「今の時代車なんてなくてもいい派」なんですよ。ましてや、道路の真ん中でとまっちゃうかもしれない古い車を買おうのは、全然合理的じゃないんです。それでも「PAO」を買っちゃったのは、他の車には感じない唯一無二の「わくわく」を感じてしまったからでした。

踊り場もなく一気に上がる階段で、さすがに難しいだろうと思ったけど一応聞いてみると「上がる」と言っただけなんです。マジ？と思いつつ、これは彼の意思を尊重していざチャレンジ！リズムよく上りはじめたものはやはり途中でペースダウン。踊り場なしの階段は大人でも大変。やはり無理かと思っていたら、周囲の参拝者たちから「お、頑張ってるねえ」の声。奮起したのか、一歩一歩階段を踏みしめながらなんとか無事ゴール！高下駄前ではしゃぎながら記念撮影をし、今度こそ無事参拝終了。息子の頑張る姿、いいですね。お父さんも一年頑張ります。(さらに続く、三百五十段の階段も上がりたと言っていたけど、そこは大人が無理...)

福祉施設研究所 スタッフの最近 //

STAFF NOTE

福祉施設研究所 設計スタッフ
すだ たつや
須田 達哉

福祉施設研究所 スタッフによる //

PAPA'S DIARY

福祉施設研究所 副所長
まえしろ よしのぶ
真栄城 嘉敦

What's HIBINOSEKKEI + FUKUSHIKEN?

1972年に創業した「株式会社日比野設計」の福祉施設設計ブランド。日比野設計 + 福祉施設研究所が携った施設は全国に及ぶ。株式会社日比野設計では、他にも幼児施設専門の設計ブランド「幼児の城」、幼児施設インテリア設計のブランド「KIDS DESIGN LABO」、カフェ & レストラン「2343 FOODLABO」や「2343 DEPARTMENT」、保育園「KIDS SMILE LABO」、マルシェ「ICHIGO MARCHE」を運営。施設設計と運営のノウハウを活かし、様々な事業を循環型の事業として展開している。

株式会社日比野設計 / hibinosekkei.com
【本社】〒243-0218 神奈川県厚木市飯山南四丁目18番1号 046-241-3339
【支社】〒243-0014 神奈川県厚木市旭町1丁目7-3 3F 046-230-6155

HIBINOSEKKEI	youji no shiro	FUKUSHI KEN	2 3 4 3 Farm and Market to Your table.
KIDS DESIGN LABO	KIDS SMILE LABO helping you challenge with love	2 3 4 3 DEPARTMENT	2 3 4 3 Farm and Market to Your table. FOODLABO since 2008